



万博発、10色スタンプ

中山道広重美術館では、10月6日～12月4日の間、愛知万博のシャチハタマークタウン内ワークショップで使用していた浮世絵スタンプを借用し、体験できるコーナーが設置してあります。

コーナーには10種類のスタンプが並び、順番に重ねて押していくと歌麿の美人画「ビードロを吹く女」が出来上がります。

訪れた方たちは、スタンプがにじまないよう、慎重に押していました。

美術館2階に設置されているスタンプコーナー

生の朗読に触れた授業

10月8日、大井第二小学校で、女優の竹下景子さんを講師に朗読の授業が行われました。県教育委員会の能力開花支援事業を活用したもので、午前は5年1組で、午後は体育館で全校児童を対象に、国語の教科書を使って授業が行われました。竹下さんは、児童一人一人の音読に丁寧に耳を傾けながらアドバイス。最後に「朗読は答えが一つではない。その時その時の気持ちが大事」とお手本の朗読を披露し、聴衆を魅了しました。



最初にみんなで声を合わせての朗読。竹下さんも感心

えな斎苑稼働開始

平成14年度から事業に着手し、東野字花無山の阿木川ダム湖畔に建設をしていた新火葬場「えな斎苑」が完成し、10月12日に竣工式が行われました。

えな斎苑は、10月13日に稼働を開始。火葬炉3基（増炉予定1基）、動物炉1基を備え、ダイオキシン類などの排ガス基準を厳しく設定し、ばい煙、臭気、騒音などの公害防止に万全を期した周辺環境に優しい施設となっています。

火葬炉への火入れ式



ささゆりの湯に50万人

10月4日、くしはら温泉ささゆりの湯が入館者50万人を達成しました。

50万人目となったのは岡崎市の田中四郎さん、美代子さん夫妻。2人は週に3日は串原でマレットゴルフをして温泉に入るという常連さんで、適度な運動と温泉の効果で足の痛みが良くなったということでオープン以来のファン。記念のくす玉を割り、市長から記念品を受け取ると「とにかくうれしい」と感想を述べられました。

入館者50万人を達成しくす玉を割る田中さん夫妻

動く列車で取締役会

10月4日、第3回明知鉄道取締役会が明知鉄道の列車内で行われました。

利用客増加へのPRとして、初めての試みとなる今回は、通常ダイヤの列車に会議用車両1両を増結。役員13人が恵那駅や東野駅から乗り込むと、時速30kmで走る会議室はゆっくりと揺れながら明智駅へ。引き続き恵那駅へ折り返し、約2時間で往復。列車内では開業20周年記念事業や利用促進策などについて、議論がされました。

取締役会であいさつをする社長を務める可知市長



特色ある畜産を目指して

10月5日、岩村町で市畜産振興協議会通常総会が開催され、夢のある畜産の発展を願って活発な意見交換が行われました。

市町村合併に伴い、今回から恵南地域の畜産を営む方も加入していただき、広域化した新たな体制で再スタートしました。

この団体は、酪農・和牛・養豚・養鶏を営む個人、法人と関係機関で構成され、市の畜産を担っています。安心・安全な畜産物の供給に向け、一致団結して取り組んでいます。

畜産の発展についての意見交換会





旧家に琵琶の響き

10月17日、大井町の中山道ひし屋資料館で秋月の宵「筑前琵琶演奏会」が開催され、薄明かりの中、旧家に響く琵琶の微妙な音色と語りが約150人の聴衆を魅了しました。

琵琶奏者田中旭泉さん（八百津町在住）は、幼少から琵琶を始め、現在は人間国宝の山崎旭萃さんに師事。国内外で演奏活動をされ、同資料館での演奏会は今回で4回目。今回は源義経にちなんだ「舟辨慶」、明智光秀にちなんだ「小栗栖」の2曲が披露されました。

薄明かりの中、幻想的な琵琶の微妙な音色が聴衆を魅了



地域の将来像など答申

10月13日、市役所で市内6地域自治区の地域協議会長が可知市長に各地域の課題や目指すべき将来像などをまとめた地域計画の答申書を提出しました。

答申書は6地域協議会が4月に市から諮問を受け協議を進めていたもので、行政が取り組むものだけでなく、地域の皆さんが取り組む活動も提案され、その内容は11月からの地域懇談会で、市総合計画の素案と共に市民の皆さんへ説明されます。

可知市長に答申書を提出する6地域協議会長ら

上矢作町で心の交流

10月16日から24日までの9日間、モンゴル国の13歳から15歳までの子どもたち8人がホームステイに上矢作町を訪れました。

市内の施設を見学したほか、日本の童謡やモンゴル国の民族の踊りを披露するなど、小学生や中学生とも交流を図りました。

ホームステイでは9家族が受け入れ、日本の家庭を3日間にわたり体験するなど言葉や文化の壁を越え、笑顔と心が通じ合う交流ができました。



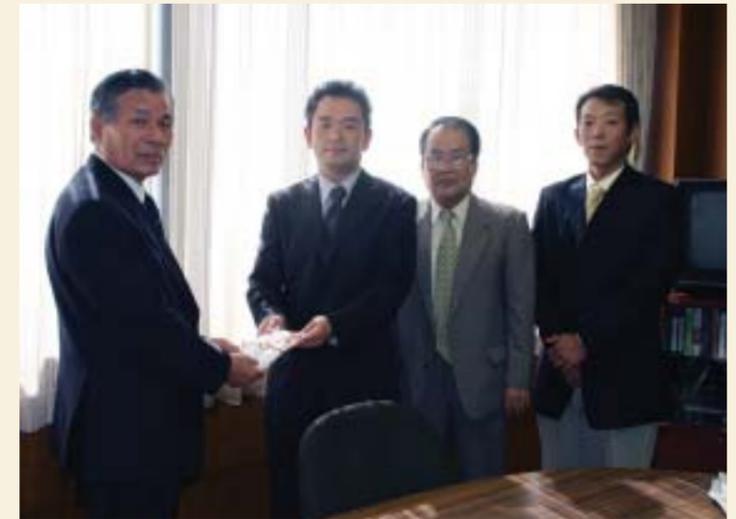
手と手を取り合い踊る子どもたち

岩村城の再建を目指して

岩村城再建構想実行委員会では岩村城再建を目指して、本年度で12年目を迎える岩村城再建構想事業を実施しています。

その活動の一環として、岩邑小学校グラウンドで行われた「ザ・縁日」の売上金や岩村町内に城再建募金箱を設置し、募金活動を通じて得た776,158円を城再建基金として、10月13日、市に寄付されました。

基金は9,352,182円となり、城再建の費用として役立てていきます。



寄付金を受け取る可知市長



やったー！芋掘れたよ

10月20日、明智町大久手の観光協会ふれあい農園で明智小学校1年生と吉田小学校5年生の児童ら約80人が5月に植えたサツマイモの収穫をしました。

芋は立派に育ち、素手で房になった芋を掘り出すと、子どもたちの歓声が聞かれました。芋掘り体験は観光協会が子どもたちに農業体験をしてもらおうと始めたもので、今年で3年目。収穫した芋は、家で食べるほか、給食、料理教室などに使用する予定。

素手で芋の周りの土を掘り、芋を掘り出す児童



笠置の山に響く音

10月15日、恵那北小学校体育館で笠置山麓ふれあいコンサートが行われました。

ミュージカル「ライオンキング」のパーカッションとして活躍中のマボさんと村瀬裕也さんの2人を招き、メガホンや空のペットボトルなど「音の出るもの」を持参した大人から子どもまで約250人が参加。全員で「水戸黄門のテーマソング」や「ファイアーダンス」などを笠置山に響き渡るほど力強く奏でました。

力強く演奏をするマボさん[Ⓔ]と村瀬さん[Ⓕ]